The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	2011年度 CSCD広報デザインワーキンググループ活動の記録 : CSCDの活動についての大阪大学学内における認知度向上の試み
Author(s)	森川, 優子; 片平, 深雪; 松川, 絵里 他
Citation	Communication-Design. 2013, 8, p. 89-99
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24608
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2011年度 CSCD広報デザインワーキンググループ活動の記録
―CSCDの活動についての大阪大学学内における認知度向上の試み―

森川優子（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター：CSCD）
片平深雪（大阪大学CSCD）
松川絵里（大阪大学CSCD）
蓮行（大阪大学CSCD）
内野花（大阪大学CSCD）
木ノ下智恵子（大阪大学CSCD）
久保田テツ（大阪大学CSCD）
宮本友介（大阪大学CSCD）
本間直樹（大阪大学CSCD）
八木絵香（大阪大学CSCD）

A report of working group for public relations and creative design activities on intra-university communication

Yuko Morikawa（Center for the Study of Communication-Design: CSCD, Osaka University）
Miyuki Katahira（CSCD, Osaka University）
Eri Matsukawa（CSCD, Osaka University）
Rengyo（CSCD, Osaka University）
Hanna Uchino（CSCD, Osaka University）
Chieko Kinoshita（CSCD, Osaka University）
Tetsu Kubota（CSCD, Osaka University）
Yusuke Miyamoto（CSCD, Osaka University）
Naoki Homma（CSCD, Osaka University）
Ekou Yagi（CSCD, Osaka University）

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（以下、CSCD）においては、その活動内容の認知向上のために、大阪大学内での広報活動とその戦略立案が重要である。CSCD広報デザインワーキンググループ（以下、広報WG）は、このような考え方のもとで2010年度に発足し活動を続けて来た。活動開始当時のCSCDの広報活動の目的は、「学生のCSCD教育プログラムについての認知度を向上する」ということであったが、2011年度の活動を続けて行くなかで、「学生のみならず教職員のあいだで、CSCD教育プログラムおよび社学連携の活動に対する認知度を向上する」ことを目的とするようになった。

本稿では広報WGの2011年度の活動について時系列で報告する。具体的には1）2011年度春の広報活動、2）2011年度春の広報活動の効果の調査、3）広報戦略の再立案、4）広報紙「VOICE」の発行、5）CSCDホームページ上での情報発信、6）シラバスの改訂である。

キーワード
CSCD教育プログラム　広報　ウェブサイト　シラバス
Communication-design courses, public relations, website, syllabus

1. はじめに　～2010年度活動の振り返り

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（以下、CSCD）は、全学共通の大学院生向け教育プログラムを展開したり、学内に限定しない社学連携活動としてさまざまなカフェプログラムを展開したりと非常に多種多様な活動を行なっている。これらCSCDの各種活動について大阪大学内における認知度を向上するため、広報活動とそのための広報戦略が重要である。CSCD広報デザインワーキンググループ（以下、広報WG）が2010年度年度末に立案した広報戦略は「大阪大学の大学院生におけるCSCD教育プログラムに対する認知度を向上させる」というものであった。

以上の方針に基づいて、2011年度シラバスと2011年春号「VOICE」が2011年3月末日に発行された（平井 他［2011］）。

2. シラバス・広報紙「VOICE」春号の配布活動

今までのCSCDのシラバスの配布方法は、各部局事務局窓口に郵送するというものであった。結果、各研究科のガイダンスでは学生に配布されるものの、各研究室にまでは配布されておらず、また部局の目立たない場所に置かれていることもしばしばあった。このような状況をふまえ、2011年度シラバスについては学生アルバイトを活用し、学生食堂や図書館、学生用休憩スペースのラック、研究室のレターボックスなどにきめ細かく配布するようにした。

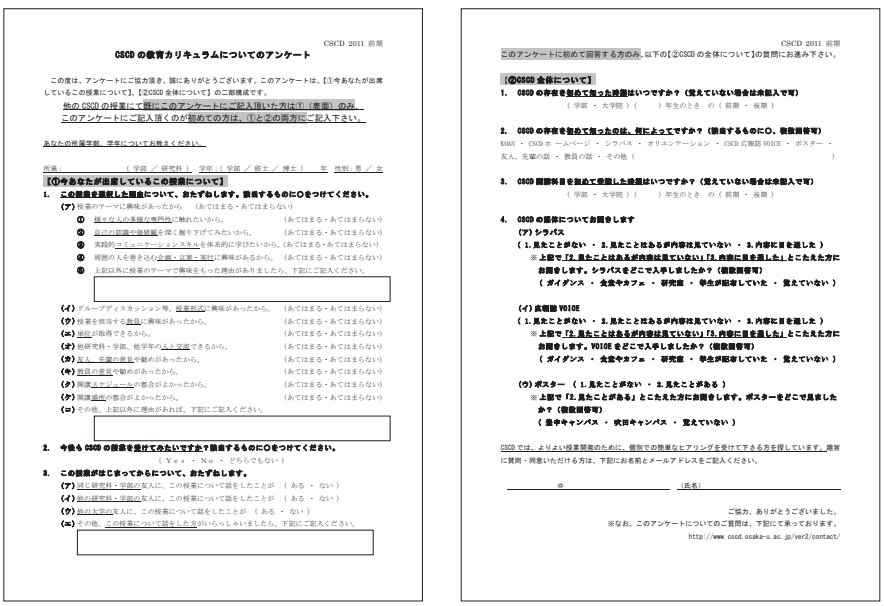
一方、「VOICE」は、従来の広報紙と異なりタイムリーな情報を分かりやすく掲載することに注力した広報紙である。「VOICE」をシラバスと一緒に配布することで、手にとった人がCSCDの教育プログラムについてより理解しやすいようにした。

CSCDの内部ではこれ以降、VOICEの発行は学生バイトによる配布とセットと考えるようになった。

【図1】 学生アルバイトによるシラバス・「VOICE」配布活動の様子

3. アンケートによる広報活動の効果の調査

以上のような2011年度春のシラバス・VOICEを中心とした広報活動の効果について調査するため、2011年7月～8月のCSCDの授業内にて受講生にアンケートを実施した。



CSCD 2011 前期

CSCD の教育カリキュラムについてのアンケート

この度は、アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございます。このアンケートは、【①今あなたが出席しているこの授業について】、【②CSCD 全体について】の二部構成です。

他の CSCD の授業にて既にこのアンケートにご記入頂いた方は①（表面）のみ、
このアンケートにご記入頂くのが初めての方は、①と②の両方にご記入下さい。

あなたの所属学部、学年についてお教えください。

所属：（ 学部 ／ 研究科 ） 学年：（ 学部 ／ 修士 ／ 博士 ） 年 性別：男 ／ 女

【①今あなたが出席しているこの授業について】

1. **この授業を選択した理由について、おたずねします。該当するものに○をつけてください。**
   (ア) 授業のテーマに興味があったから （あてはまる・あてはまらない）
   ① 様々な人の多様な専門性に触れたいから。 （あてはまる・あてはまらない）
   ② 自己の認識や価値観を深く掘り下げてみたいから。 （あてはまる・あてはまらない）
   ③ 実践的コミュニケーションスキルを体系的に学びたいから。（あてはまる・あてはまらない）
   ④ 周囲の人を巻き込む企画・立案・実行に興味があるから。 （あてはまる・あてはまらない）
   ⑤ 上記以外に授業のテーマで興味をもった理由がありましたら、下記にご記入ください。
   (イ) グループディスカッション等、授業形式に興味があったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (ウ) 授業を担当する教員に興味があったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (エ) 単位が取得できるから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (オ) 他研究科・学部、他学年の人と交流できるから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (カ) 友人、先輩の意見や勧めがあったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (キ) 教員の意見や勧めがあったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (ク) 開講スケジュールの都合がよかったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (ケ) 開講曜日の都合がよかったから。 （あてはまる・あてはまらない）
   (コ) その他、上記以外に理由があれば、下記にご記入ください。
2. **今後も CSCD の授業を受けてみたいですか？該当するものに○をつけてください。**
   （ Yes ・ No ・ どちらでもない ）
3. **この授業がはじまってからについて、おたずねします。**
   (ア) 同じ研究科・学部の友人に、この授業について話をしたことが （ ある ・ ない ）
   (イ) 他の研究科・学部の友人に、この授業について話をしたことが （ ある ・ ない ）
   (ウ) 他の大学の友人に、この授業について話をしたことが （ ある ・ ない ）
   (エ) その他、この授業について話をした方がいらっしゃいましたら、下記にご記入ください。

CSCD 2011 前期

このアンケートに初めて回答する方のみ、以下の【②CSCD の全体について】の質問にお進み下さい。

【②CSCD 全体について】

1. **CSCD の存在を初めて知った時期はいつですか？（覚えていない場合は余白入で可）**
   （ 学部 ・ 大学院 ）（ ）年生のとき の（ 前期 ・ 後期 ）
2. **CSCD の存在を初めて知ったのは、何によってですか？（該当するものに○、個数回答可）**
   KOAN ・ CSCD ホームページ ・ シラバス ・ オリエンテーション ・ CSCD 広報誌 VOICE ・ ポスター ・ 友人、先輩の話 ・ 教員の話 ・ その他（ ）
3. **CSCD 開講科目を初めて受講した時期はいつですか？（覚えていない場合は余白入で可）**
   （ 学部 ・ 大学院 ）（ ）年生のとき の（ 前期 ・ 後期 ）
4. **CSCD の部体についてお聞きします**
   (ア) シラバス
   （ 1. 見たことがない ・ 2. 見たことはあるが内容は見ていない ・ 3. 内容に目を通した ）
   ※上掲で「2. 見たことはあるが内容は見ていない」「3. 内容に目を通した」とこたえた方にお聞きします。シラバスをどこで入手しましたか？（個数回答可）
   （ ガイダンス ・ 食堂やカフェ ・ 研究室 ・ 学生が配布していた ・ 覚えていない ）
   (イ) 広報誌 VOICE
   （ 1. 見たことがない ・ 2. 見たことはあるが内容は見ていない ・ 3. 内容に目を通した ）
   ※上掲で「2. 見たことはあるが内容は見ていない」「3. 内容に目を通した」とこたえた方にお聞きします。VOICE をどこで入手しましたか？（個数回答可）
   （ ガイダンス ・ 食堂やカフェ ・ 研究室 ・ 学生が配布していた ・ 覚えていない ）
   (ウ) ポスター （ 1. 見たことがない ・ 2. 見たことがある ）
   ※上掲で「2. 見たことがある」とこたえた方にお聞きします。ポスターをどこで見ましたか？（個数回答可）
   （ 豊中キャンパス ・ 吹田キャンパス ・ 覚えていない ）

CSCD では、よりよい授業開発のために、個別での簡単なヒアリングを受けて下さる方を探しています。疑問に質問・興味いただける方は、下記にお名前とメールアドレスをご記入ください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ @ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （氏名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力、ありがとうございました。
※なお、このアンケートについてのご質問は、下記に承っております。
http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/ver2/contact/

【図２】 アンケート　フォーム

アンケートの有効回答数は150であった。

このアンケートはあくまでも授業アンケートの一貫として実施したものであり、統計学的に広報の効果を測定するものではない。広報WGが広報戦略を立案していくにあたり、何らかの仮説をたてる手がかりとするために実施したものである。

結果として、下記のような傾向が読み取れた。（下記数字は、いずれも該当回答数／有効回答数）

1）キャッチフレーズ「好奇心を殺すな。せっかく阪大にいるんだから、もっとぜいたくに学ぶ。」の効果は大きかったと考えられる。

（ア）キャッチフレーズを知っている：91/135

（イ）キャッチフレーズが「非常に印象的」もしくは「まあまあ印象的」: 79/94

2）CSCDの授業を受ける人は授業の「内容」そのものに興味を持っている人であると考えられる。

（ア）「授業のテーマに興味があったから」に当てはまる：126/146

3）2011年度シラバスでは初めて、各科目に対する4種類のタグ（「様々な人の専門性に触れたい」「自己の認識や価値観を深く掘り下げてみたい」「実践的コミュニケーションスキル・ウィルを体系的に学びたい」「周囲の人を巻き込む企画・立案・実行に興味がある」）付けを行ったが、いずれのタグにおいても「当てはまる」と答えた人の割合が比較的高く、有効であったと考えられる。

以下、CSCDの授業を受講した理由について

（ア）「様々な人の専門性に触れたい」に当てはまる：95/127

（イ）「自己の認識や価値観を深く掘り下げてみたい」に当てはまる：98/126

（ウ）「実践的コミュニケーションスキル・ウィルを体系的に学びたい」に当てはまる：91/126

（エ）「周囲の人を巻き込む企画・立案・実行に興味がある」に当てはまる：57/126（特に、「地域コミュニケーションデザイン・コーディネーター入門」では8/9）

4）多くの受講生が今後もCSCDの授業を受けてみたいと考えており、今後リピーターになる可能性が高いと考えられる。

（ア）今後もCSCDの授業を受けてみたい：114/146

5）半数近くの受講生がCSCDの情報を学部生時代に得ており、広報対象は大学院生だけでなくより広い学年層だと考えられる。

（ア）受講生のうち、学部生の割合：53/137

（イ）CSCDの存在を初めて知ったのは「学部生」のとき：62/132

（ウ）CSCD開講科目を初めて受講したのは「学部生」のとき：57/129

6）シラバス以外の媒体については、認知度を向上させる余地があると考えられる。

（ア）「VOICE」を「見た事はあるが内容は見ていない」「内容に目を通した」: 56/130

（イ）HPについて、「見た事はあるが内容は見ていない」「内容に目を通した」: 62/135

上記の内容をふまえ、広報WGでディスカッションを行い、広報戦略を練り直した。その結果、CSCDで行っている教育プログラムや社学連携等の様々な活動に関して、学生に限らず、大阪大学の教職員を対象として広報を行うべき、という意見が強くなってきた。

4. 広報戦略の再立案

3.をふまえ、再立案された広報戦略は下記である。

1）広報の対象について：大学院生に限らず、大阪大学に所属する学部生、教職員も広報の対象とする。「VOICE」やホームページについては、「多くの大学院生にCSCDの教育プログラムに興味をもってもらう」ことを目的としたツールとして使うだけでなく、CSCDの活動全般を大阪大学に所属する学生・教職員に広く伝えるためのツールとして位置づける。

2）情報発信の頻度について：「VOICE」の発行回数を年1回から2回に変更する。新年度4月の時点でシラバスと共に配布するだけでなく、年度途中（秋）にも発行し、単体で学内に配布することで、CSCDの活動全般を伝えるツールとして認知度を向上させる。また、HP上での情報発信も通年で定期的に行う（原則、月1回以上）ことを目指す。

5. 2011 年度秋以降の「VOICE」の発行

5.1 2011 年秋号の発行

2011年秋号「VOICE」は4.に基づき企画され、発行された。大阪大学創立80周年記念関連事業の一貫として2011年8月5日に実施された、ラウンドテーブル「知のジムナスティックス～学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か」のレポートをメイン記事として掲載した。

【図 3】 2011 年秋号「VOICE」

5.2 2012年春号の発行

2012年春号「VOICE」は4.に基づき企画され、発行された。2011年12月19日に大阪府立豊中高校において実施された「白熱教室in豊中高校」のレポート、2011年8月から行われているCSCDとアサヒグループホールディングス株式会社の共同研究「アサヒ ラボ・ガーデン コミュニケーションデザイン共同研究プロジェクト」のレポートをメイン記事として掲載した。

【図4】 2012年春号「VOICE」

6. CSCDホームページへの記事掲載

CSCDホームページは下記の方針に基づき、2011年4月にオープンした（平井 他［2011］）。

1）CSCDの活動を具体的にイメージできるページづくりを行う

2）見る人の視点に立ってページづくりを行う

3）情報を取捨選択し、階層化することでより見やすくする

4）定期的に情報発信を行う

上記に4.の方針を加え、2011年度におけるスペシャル記事（広報WGのメンバーが中心となって取材、制作、編集を行う記事）が掲載された。

また、スペシャル記事掲載の際には、下記のカテゴリー分けを行った。

■インタビュー：CSCDに関わった学生、外部の人に対するインタビュー。

■活動レポート：アートエリアB1、オレンジショップ等で行われている各種カフェプログラム、CSCD教育プログラム等、CSCDに関する活動の内容を伝えるレポート。

■コラム：CSCD教員によるコラム。

【表 1】 2011 年度 CSCD ホームページ　スペシャル記事内容

	掲載日時	タイトル	内　　容
1	4月 1日	対談：研究者にこそ求められる「素朴な好奇心」	小林傳司教授と審良静男教授（免疫学フロンティア研究センター拠点長）の対談
2	4月 4日	インタビュー：価値観や考え方の面でCSCDに惹かれたんです	竹内亮介氏（OB）のインタビュー
3	4月 7日	活動レポート：靴を脱いで受ける授業	蓮行特任講師による「パフォーミングアーツの世界」の授業のレポート
4	4月11日	インタビュー：自由に動けるのは今しかない、と思います	八百伸弥氏（OB）のインタビュー
5	4月12日	活動レポート：「CSCD」を配達中です	VOICE配布の活動レポート
6	4月14日	インタビュー：いろいろな人が自由な感じでいるところ	家田優子氏（OG）インタビュー
7	4月18日	インタビュー：自分の考えを発信していくおもしろさ	鈴木寛和氏（文学部2回生）インタビュー
8	4月22日	インタビュー：人の気持ちがわからなければうまく演じられない	鳥川優子氏（法学部4回生）インタビュー
9	5月 9日	活動レポート：からだが話すってどういうこと？（1）	カフェ「からだトーク」活動レポート
10	5月11日	活動レポート：からだが話すってどういうこと？（2）	カフェ「からだトーク」活動レポート
11	5月28日	コラム：シナモンに魅せられて～ベトナム・タコバス紀行	内野花特任講師によるコラム
12	6月17日	活動レポート：自分の研究、説明できる？	集中講義「科学技術コミュニケーションの理論と実践」のレポート
13	7月20日	活動レポート：東日本大震災、考えるべき問いは何か？	集中講義「科学技術コミュニケーションの理論と実践」のレポート
14	7月27日	活動レポート：「おや」も「こ」も「おやこ」も、大歓迎！	カフェ「子カフェ」レポート（「21世紀懐徳堂だより」より転載）
15	8月19日	コラム：アフリカと私～研究遍歴紹介の補足として	三成賢次教授によるコラム
16	9月 6日	活動レポート：かるたで話す・考える～ワークショップデザイン	カフェ「ワークショップデザイナー・カフェ　三百人（!?）一首」の活動レポート
17	9月20日	活動レポート：知のジムナスティックス～学問の臨床、人間力の鍛錬とは何か～	大阪大学80周年記念事業の活動レポート
18	9月29日	コラム：日常的な話し合いを社会的議論につなげる	山内保典特任研究員によるコラム
19	10月 3日	インタビュー：「こうしていれば」思いを胸に、次は高校生と	坪内邦男氏（工学研究科博士前期1年）のインタビュー
20	10月12日	コラム：場所で変わる対話の不可思議？：臨床コミュニケーション的思考のすすめ	池田光穂教授によるコラム

	掲載日時	タイトル	内　　容
21	10月26日	インタビュー：難解でも本物、科学技術と社会という問題に挑む白熱教室	寺園慎一氏（NHKエンタープライズ情報文化番組統括部長）のインタビュー
22	11月23日	コラム：“まち”を観光するということ～手探りのコミュニティ・ツーリズム～	茶谷幸治招へい教授によるコラム
23	12月 7日	活動レポート：白熱教室　受講生感想	白熱教室受講生の感想
24	12月21日	インタビュー：専門分野と「うすーく」つながる、CSCDの授業	塚田千尋氏（医学系研究科1年）インタビュー
25	1月 5日	活動レポート：知デリ「ひと×人　幸福論」	知デリ「ひと×人　幸福論」活動レポート
26	1月20日	コラム：「研究の社会的責任」の四年間	高田珠樹教授によるコラム
27	2月 4日	インタビュー：高校生も「白熱教室」にチャレンジしたい！	上久保真理氏、堀田暁介氏（大阪府立豊中高校教諭）のインタビュー
28	2月 5日	インタビュー：「既定路線に乗らないこと」が“cutting edge”を生む	上田晶子特任准教授（グローバルコラボレーションセンター）の学生有志によるインタビュー
29	3月 6日	コラム：気になるダンサーと臨床コミュニケーションを探る	西川勝特任教授によるコラム

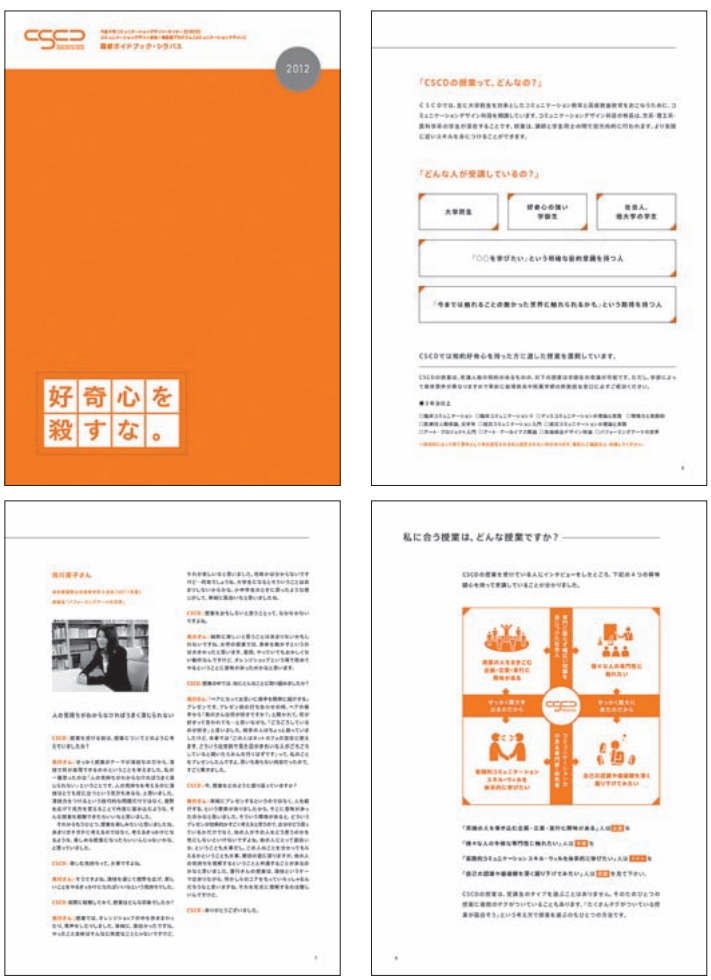
注）所属・役職・学年は掲載当時

【図 5】 CSCD　ホームページ

7. シラバスの改訂

CSCDのシラバスは、2010年度末にキャッチコピー「好奇心を殺すな。せっかく阪大にいるんだから、もっとぜいたくに学ぶ。」を作成し、内容やデザインを大幅に改訂した（平井他［2011］）。2011年春の配布時の学生の声や教職員からの意見に基づき、2012年春号発行のシラバスの企画においては、下記のように企画内容を変更した。

・シラバス表紙に窓をつけ、「好奇心を殺すな」キャッチフレーズが内側からのぞくようにした。シラバスを手にとった人が「表紙をめくってみよう」という気持ちになるための仕掛けとした。
・各ページの項目を「CSCDの授業って、どんなの？」「どんな人が受講しているの？」と読み手の気持ちを代弁するようなものにした。
・巻頭に過去にホームページに掲載した学生インタビューの記事を再編集して掲載した。それにより、その後に続く授業のシラバスページへと誘導した。
・各科目に付けた「周囲の人を巻き込む企画・立案・実行に興味がある」「様々な人の専門性に触れたい」「実践的コミュニケーションスキル・ウィルを体系的に学びたい」「自己の認識や価値観を深く掘り下げてみたい」の四種のタグついて、読み手がより理解しやすいようデザインを変更した。



【図 6】 2012 年度　シラバス

8. 成果と今後の課題

2011年度の広報WGの活動における成果は、4.で挙げたように「CSCDにおける広報の目的」と「広報の手段」が明確にリンクできたことであろう。またもうひとつ挙げるなら、実務として「取材し、記事を作成する→ウェブや『VOICE』に掲載する→特に評判の良い記事をシラバスに掲載する」という一連の活動について、担当者間の業務分担が明確になり、活動サイクルが構築できたことも大きい。これによって、方向性が明確な状態で定期的に新着記事をホームページや「VOICE」に掲載できるようになった。学内を見渡しても、これほど教職員が主体的に関わっている広報は少ないと思われる。

一方で、課題も顕在化している。ひとつはCSCD内部の言語化されていない（個々人の教員の中には言語化されているが、それが共有化されていない）多くの知見である。「CSCDは一体、何をしているところなのか？」という問いかけに対して、端的にこたえることが未だもって難しく、大量の事例、資料、記事によってやっと説明しているという状況である。今後はこの点についても、広報WGにおいて議論をすすめていきたい。

課題としてもうひとつ挙げられるのは、更なる負荷の軽減である。より少ない負荷で取材・記事作成ができれば、よりタイムリーに記事を掲載することができるようになるはずである。この点については、業務分担の明確化や作業プロセスの見直し等を行い、更に工夫をしていきたい。

9. まとめ

広報WGでは、「大学院生のCSCD教育プログラムについての認知度を向上する」という目的でシラバス、広報紙「VOICE」の発行と配布を行い、更にその効果について7～8月に調査を行った。その結果「大学院生のみならず学部生・教職員のCSCD教育プログラムおよび社学連携の活動に対する認知度を向上する」という広報戦略を再度立案し、活動をすすめた。具体的には、CSCDの活動の記事を掲載した「VOICE」の発行、ホームページ記事の更新である。また、より読み手に分かりやすくするために2012年度シラバスを改訂した。

これらの活動は、CSCDならびに、CSCDが提供する教育プログラムや各種活動に関する大学院生や学部学生、さらには教職員における認知を高めることが期待されている。今後は、CSCD内部に眠る知見の言語化や、作業の効率化・省力化によるよりタイムリーな情報提供を行っていく予定である。

文献

平井啓・本間直樹・久保田テツ・木ノ下智恵子・蓮行・内野花・八木絵香・西村ユミ・片平深雪・森川優子・松川絵理（2011）「ソーシャルマーケティングの手法を用いた学内コミュニケーションデザインの試み—CSCD広報デザインワーキンググループの活動報告—」『Communication-Design 5』: 49—64

参照情報

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター　ウェブサイト

http://www.cscd.osaka-u.ac.jp